

# 全国学力学習状況等調査の結果概要

## 【国語】

A問題（基本的知識）、B問題（応用活用力）の正答率とともに、全国平均とほぼ同等もしくは少し高い傾向にある。領域別の正答率についてもほとんどバラつきがなく、全体的に不得意領域は見受けられない。今後も基本知識をしっかり定着させ、その知識を活用したり、意見として発表したり、簡潔にまとめたりできる力（資質や能力）の発達が実感できる学習活動を行っていく。



## 【数学】

A問題（基本的知識）、B問題（応用活用力）の正答率とともに、全国平均とほぼ同等もしくは少し高い傾向にある。B問題の正答率が高い傾向を考えると、基礎知識の定着率を更に向上させることで、もっと正答率を向上させることができるものと推察できる。

基本知識をしっかり定着させるために、ドリルや解き直しに時間をかけ、身につけた知識を生活の中で活用できる場面を想像したり、体験することで生徒の資質や能力を向上させたい。

## 【生徒質問紙】

基本的な生活習慣については、しっかりと身につけていると推察できるが、テレビやゲーム、スマホ等を使用する頻度や時間は、依然として高い傾向にある。勉強が好きだという生徒が多く、授業に不満を持つ生徒は少ないが、自分の考えを話したり、書くといった表現に慣れていない生徒が多い傾向にある。授業中の姿勢が受け身で、学んだ知識や技術を活用したいという意欲があまり育っていないが、わかろうと努力したり、何とかしてわかるようになりたいと思う生徒は多い傾向にある。規範意識は非常に高く、いじめは根絶に対する意識やルールを守るといった考えは非常によく身につけている。



一方で、自分自身を見つめ、自己肯定感や自己有要感を感じている生徒は多くない。自信を持って話したり、行動できるようにするために、話し合い活動や発表、討論などを仕組んだ授業を展開したり、戦略的に学校教育活動の中にそれらの醸成を意識した活動を取り入れていきたい。

各授業における改善点としては「課題」、「見通し」の提示、「ふり返り」の時間確保を行い、定着度を向上させると同時に、個人・ペア・グループでの「学び合い」や、考えのシェアやディベートを中心とした「話し合い」活動を活性化させることで、生徒の資質、能力を向上させていきたい。